

「県づくりの視点」について

- 現行計画においては、今後の県づくりにおいて特に重要となる3つの視点を提示しています。

- 視点①「人材」
 視点②「環日本海・アジア新時代」
 視点③「ふるさと」

- これらの視点は、今後10年を見据え、富山県が一層の発展を遂げるために不可欠なキーワードというべきものであり、県づくりの目標に向かって諸政策を展開するにあたり、常に中心に据えながら取り組んでいく視点としています。
- 新総合計画においては、現行計画を踏まえつつ、富山県経済・文化長期ビジョン（平成28年9月策定）で示した視点を活かし、以下のとおり4つの視点を掲げることとしてはどうか。

<県づくりの視点（案）>

○ 新たな価値創出

- ・本県産業の背骨ともいえるべき製造業の新たな発展・飛躍とともに、ソフトパワーである文化の力で心の元気を生み出し、経済力と文化力の相乗効果で新たな価値を創出する。
- ・第4次産業革命に対応し、労働生産性を高めるとともに、新たな付加価値を生み出す。
- ・北陸新幹線の大阪までの全線開業により、北陸・信越、関西圏、中京圏、首都圏をネットワーク化して世界的な経済・文化圏である「大ゴールデン回廊」を創出し、その重要な一角を担うことを展望する。

○ グローバル新時代

- ・中国、アセアン、インド等の環日本海・アジアの新興国の台頭で、世界が多極型へ変化する中で、こうした国々との交流を深め、ともに発展する。
- ・グローバル化の中で各地域が価値観の多様性を互いに認め合うとともに、地域のオリジナリティをしっかりと堅持し、発信力を強化する。

○ ふるさと

- ・ふるさとは県民の生活、活動の場で、心の拠り所にもなるものであり、ふるさとへの誇りと愛着を育みながら、誰もが快適に暮らせる県づくり、力強く生きていける社会づくりを進めていく。
- ・勤勉で進取の気性に富む県民性、地域の強い絆、美しい自然環境などが「群」となって全国トップクラスの暮らしやすさを形成している富山県のアイデンティティ（個性）を後世に受け継いでいく。

○ 人づくり

- ・様々な分野において活躍する有意な人材は、県づくりの根本となる最も貴重な財産であり、これからの富山県や日本を支えるとともに、ふるさとに心の根をおきながら、グローバルな舞台でも活躍できる人づくりを進めていく。
- ・経済に強いだけでなく、文化力も兼ね備えた人材、第4次産業革命といった新たな時代への対応力を持った人材を育成する。
- ・それぞれのライフステージにおいて、健康で生きがいをもち、意欲や能力に応じて活躍するとともに、若者、女性、高齢者、障害者など多様な人材が共生できる社会の実現に向けた取り組みを進めていく。